

令和6年度

上市町教育委員会事務管理執行状況等点検評価報告書

上市町教育委員会

目 次

令和6年度教育委員会活動状況	1
1 委員選任状況	
2 会議開催状況	
(1) 会議開催数	
(2) 付議案件数	
(3) 会議に付された主な案件	
(4) 視察等	
評価総括表	2
不登校児童・生徒相談支援	9
小学校外国語活動の推進	10
教員の働き方改革の推進	11
放課後こども教室の充実	12
公民館の充実	13
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進	14
「スポーツ・イン・ライフ」の実践	15
生涯に渡りスポーツを楽しむ環境の整備	16
スポーツ設備の整備	17

1 委員等選任状況

令和7年3月1日現在

職	氏名	年齢	性別	元教諭	任期	通算在任年数	役職任期及び通算在任年数	常勤・非常勤の別	保護者
教育長	牧田 康博	67	男	○	R6.4.1~ R9.3.31	3年11月	教育長: R3.4.1~ (3年11月)	常勤	
教育長職務代理人	高島 善与	70	男	○	R5.10.1~ R9.9.30 (R1.10.1~ R5.9.30) (H29.10.1~ R1.9.30)	7年5月		非常勤	
委員	碓井三恵子	49	女	○	R2.10.1~ R6.9.30	4年5月		非常勤	○
委員	郷田 千秋	67	女	○	R3.10.1~ R7.9.30	3年5月		非常勤	
委員	内山 彰博	51	男		R6.10.1~ R7.9.30	5月		非常勤	

2 会議開催状況

(1) 会議開催数

定例会	12回
臨時会	2回
書面決議	0回

(2) 付議案件数

議案	24
報告事項	27
請願	0
その他	14
計	65

(3) 会議に付された主な案件

- ・義務教育学校の教育基本構想について
- ・上市中学校陸上競技部の活動中の事故について
- ・学校活動中の安全対策について
- ・令和7年度使用教科用図書採択について
- ・義務教育学校教育課程の区切りとしての学年区分について
- ・義務教育学校整備コンセプトについて
- ・令和7年度上市町教育目標及び学校教育基本方針決定の件

このほか、町議会に提出される予定の議案に対する意見について付された。

(4) 視察等

学校訪問	7
先進地視察	1
県・地方教委研修	2
計	10

先進地視察 : 京都市立向島秀蓮小中学校
 ※先進の義務教育学校及び校舎を視察
 県・地方教委研修 : 県内各教育委員会（富山県市町村教育委員会連合会）

3 評価総括表（令和6年度事業）

重 点 目 標	担 当 班
主な事業	
不登校児童・生徒相談支援	学校教育班
小学校外国語活動の推進	学校教育班
教員の働き方改革の推進	学校教育班
放課後子ども教室の充実	生涯学習班
公民館の充実	生涯学習班
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進	生涯学習班
「スポーツ・イン・ライフ」の実践	生涯スポーツ班
生涯に渡りスポーツを楽しむ環境の整備	生涯スポーツ班
スポーツ施設の整備	生涯スポーツ班

成果・効果

〔 学校教育 〕

「心身ともにたくましく心豊かに生き抜く児童・生徒を育てる。」「創造性に満ち、主体的に学び続ける意欲・態度・能力を持った児童・生徒を育てる。」を指導方針に掲げ、保護者と地域、学校が連携して子育てを行う教育を目指している。

小中各校のグラウンド整備を含めた今後の大規模修繕等の計画については、義務教育学校建設も見据え、当面、取り留めておく。

各学校においては、児童・生徒一人ひとりの個性を尊重し、基礎基本を定着させる教育の充実を教育行政の取り組みの基本として進めている。

I C Tに対応した学習環境を学校現場において有効に活用されるように、今年度もI C T支援員を2名配置した。授業計画の作成支援、I C T機器の準備・操作支援、校務支援システムの活用支援などを行っている。

小学校の外国語については、外国語活動研修にて学校の教師に参加してもらい、小中一貫校を見据えたカリキュラム作成に取り組んでいる。

不登校・いじめへの対応については、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用も含め、早期対応と支援に努めている。不登校については、教室外登校の児童生徒も多くいることから、今後も、小中の連携構築を図るとともに、一人ひとりへのカウンセリングや家庭への支援も含め、自己肯定感を培う、粘り強い継続した取り組みが必要である。また、教育支援センターに相談指導員として教員O Bを配置し、生活面だけでなく学習面についても支援している。いじめについては、各学校での積極的な認知を呼びかけてきたことから、件数が増加しているが、いじめの捉え方など教職員の認識に変化が出始め、早期の発見・対応につながってきている。

また、特別な支援を要する児童の学校生活を支援するため、全小中学校にスタディ・メイトを配置しており、その効果は大きい。また、学習支援員として教員O Bを配置している。学校の派遣要望に対応するため、引き続き人材及び財源の確保に努める必要がある。さらに、障害を早期に発見することにより、適切な療育・教育機会の提供が行えるよう、町教育センターに発達障害支援アドバイザーを配置している。発達障害支援アドバイザーを中心に、学校や保育所などの関係機関が連携し、支援を進めてきたことにより、保護者の方々や関係者の教育支援センターも含めた特別支援教育への理解が深まっている。また、教育支援員を配置し、各小中学校からの要望に応じた教育支援を行っている。

通学路の安全点検については、今年度も実施することができた。中学校の修学旅行や、「ふるさと学習」などの課外活動、運動会や学習発表会などの学校行事は交流をしながら実施している。

地域の協力を得ながら「地域とともにある学校」という観点を第一義に捉えた魅力あふれる学校づくりを引き続き進めていく。

教員の働き方改革については、今年度も水泳指導の補助や教室のワックスがけなどを業務委託し、教員の負担軽減を図った。また、部活動の地域移行などにより中学校での教員の負担軽減に取り組んだ。さらに、給食について、町独自の公会計化を進め、学校事務の負担軽減につなげている。このほか、今年度から、登校時の学校の解錠を業務士が行うこととし、教員の出勤時間の適正化を図るとともに、小中学校の教員が出張、

休暇等により不在とする場合に代わって児童生徒の自習（教科書の練習問題、ドリル、プリント等の実施）等において指導を行う教員支援員を派遣することにより、教員の負担軽減を図った。

これからの子どもたちにとって必要とされる教育環境を整備することを目的に、令和5年5月に町長から学校統廃合の具体的な方策について上市町学校教育審議会に対し諮問があり、同審議会による議論を経て、令和6年1月に「上市町立小中学校の適正規模に関する基本的な考え方と学校統廃合の具体的な方策について」の答申があった。この答申を受けて、町として、将来的に全小中学校を統合した義務教育学校を創設すること、これに先行して、複式学級解消のため白萩西部小学校と陽南小学校を令和8年度に上市中央小学校へ統合することを方針として掲げた。義務教育学校の創設については、令和7年3月までに基本計画の策定を予定している。3校統合についても、学校間の交流活動を進め、一体感の醸成に努めるとともに、統合に向けた準備を進めていく。

〔生涯学習〕

人々に学ぶ喜びや感動を与え、達成感・生きがいをもたらす生涯学習の推進に取り組んでいる。

各公民館においては、公民館職員自らが企画する行事の開催や、地域の諸活動の拠点として、地域住民に利用される施設を目指している。コロナ禍では、不特定多数が参加する行事の中止や飲食を伴った利用の自粛など活動の規模縮小を余儀なくされたが、今年度はそうした制限を取り払い、事業を実施した。参加者数はコロナ禍前の水準には戻っていないが、新しい試みとして、相ノ木公民館においてリモートでの介護予防教室（毎週金曜）の実施や、11公民館でのスマホ教室開催、SNSでの情報発信など、デジタル技術を活用し未利用層へのアプローチを行ったところ好評であった。今後、三世代交流を軸に地域の核として、公民館の役割が益々重要になってくるので、新たな利用者を取り込めるような事業を展開していきたい。

また、「ふるさと町民学園」は、受講者が楽しく集い、共に学ぶことを大切にしながら30年以上事業を実施している。令和6年度は6講座を開催し、延べ680名の受講があった（令和5年度から集計方法を変更）。

小・中学校や公民館で実施している放課後子ども教室については、依然として参加者数がコロナ禍前の水準には戻らない教室もあるが、子供たちが集中して学習できる環境を整え、放課後教室同士で連携を図るなど、工夫して開催した。

「史跡 上市黒川遺跡群」の保存整備に関しては、平成24年度に策定した「整備活用基本計画」にある整備・活用の方向性に沿って、平成26年度に測量・基本設計と段階的に事業を進め、平成28年度より本格的に保存整備に着手したところである。今年度はパーゴラの設置やその周辺の舗装などを実施している。

〔生涯スポーツ〕

生涯スポーツにおける各種イベントの参加者数は、多くの住民がスポーツを実践し、健康づくりや生きがいにつながるよう、そして活力のあるまちづくりを推進していくうえでも、重要なひとつの指標である。

昨年度から開催した、スポーツ振興くじを活用したイベントとして、「つるぎりレーマラソン&健康ウォーク」を今年度も開催したところ、町内外、県外から昨年度の約2倍の参加があり、大変好評であった。

今後、毎年継続し、町の大きな公式イベントとしての定着を目指していく。

スポーツ少年団交流会は、今年からつるぎりレーマラソンに参加してもらい、いつもと違う活動を通じて

親睦を深めた。また、スポーツ少年団および地域クラブ、総合型スポーツクラブの指導者に向けて、救急対応についての研修を（公財）富山県スポーツ協会からの助成金を基に実施したり、町のハラスメント研修に参加したりした。

部活動の地域移行については、令和５年度から令和７年度までを改革推進期間とし全国的に取り組みが推進されるものであり、町内においても町地域クラブ推進協議会を立ち上げて町スポーツ協会や各スポーツ団体との協議を進め、現在、７競技８クラブで活動中。アンケートでは９４％の参加者が満足しており、町の手厚い支援と専門性の高い指導を受けられる点が評価されている。

プレゴールデンエイジ期の幼児、児童を対象に実施する健康運動能力向上支援事業においては、幼児期から継続的に実施することで、運動習慣の定着といった成果が見られるとともに、専門指導者の増員を行ったことで、保育所（園）や小学校教員の指導方法の共有や普段の運動プログラムの効率化といった成果が見られた。運動好きな子供の増加と体力向上という観点から継続して実施していく。

問題点

〔 学校教育 〕

いじめや不登校、その他の学校内での問題行動等については、保護者等の幼少期からの障害への理解不足や家庭環境なども影響を与えていることから、福祉部局と連携した取り組みが必要となる。今年度から、福祉課内にこども家庭センターが設置され、乳幼児期からの包括的かつ一貫した相談や支援を行うこととしており、教育委員会及び関係機関による共通理解のもと、取組を進めていく必要がある。

ＩＣＴを活用し、個々にあった学びを進めていくことが重要と考えており、さらなる活用を図るため、引き続きＩＣＴ支援員の配置や研修内容の充実を図る必要がある。来年度においては、児童生徒用端末の一斉更新、学習系・校務系システムの更新を控えており、教員、児童生徒のＩＣＴ環境の整備を進めていく必要がある。

教職員の働き方改革への視点も十分に踏まえながら、業務内容の改善を図るため、引き続き、水泳指導の委託や教室のワックスがけの業務委託、教員支援員の派遣等を進めていく必要がある。

給食費を公会計化したことにより、学校間での献立の差異をなくし、より子どもたちに安定した給食の提供を行うことができる。来年度も給食費の無償化を継続していくこととしたが、食材費が値上がりする中、一層工夫しながら、栄養のある美味しい給食の提供に努めていく必要がある。

小中学校のあり方については、義務教育学校設置について、基本計画策定及びＰＦＩ等導入可能性調査を行っており、義務教育学校の大要を示すとともに、学校建設における手法（ＰＦＩの導入可否等）について決定していく必要がある。

〔 生涯学習 〕

「公民館講座」や「ふるさと町民学園」について、受講者の高齢化と新規受講者の掘り起こしが課題とな

っている。人口減少が進む中、地域コミュニティの活性化につなげるためにも、幅広い世代が参加し交流できるよう、運営形態や情報発信の手段などを工夫し改善していくとともにデジタル技術の導入など時代に見合った環境に整備していく必要がある。中でも、情報発信について、従来は、各公民館で発行している公民館報や町広報等により発信してきたが、現在、4館（南加積、柿沢、宮川、白萩西部公民館）でインスタグラムを利用した情報発信を試みている。効果を検証しつつ、各公民館でノウハウを共有しながら継続的に運用していきたい。

「史跡 上市黒川遺跡群」の保存整備に関しては、国（文化庁）の補助金が要望額を大きく下回る状況が続き工事の発注がこま切れとなってしまう、当初の計画に遅れが生じているため、今後計画の見直しが必要である。早期の保存整備工事完了と更なる活用事業の展開を目指し、計画の見直しや整備・活用方法について整備活用検討委員会に諮りつつ、補助金の獲得に向けた国・県との協議を進める必要がある。

〔 生涯スポーツ 〕

町は民間事業者と相互連携・協働し地域の諸課題を解決する包括連携協定を締結しているが、主な取組がこれまでなかったため、今年度、町内事業所に声をかけたところ、「つるぎりレーマラソン&健康ウォーク」の実施の際に、生命保険会社による健康チェックのブースを開設することができた。今後、他のスポーツイベントへの拡充や「スポーツ・イン・ライフ」の面から様々な連携を進めていきたい。

部活動地域移行について、町が運営支援をしている7競技8団体の町地域クラブがある。今後、質の向上のため、クラブ部員の確保や運営内容の充実に向けて、学校関係者との連携を深めるなど、一層の取組が必要である。

また、部活動を令和9年度中に終了する方向性を打ち出したが、今後、子どもたちの多種多様なニーズに応える放課後の活動環境が必要であり、町地域クラブだけでは対応が難しい、文化系の活動と、スポーツを気軽に楽しみたいニーズへの対応が急務である。

総合型スポーツクラブは、部活動地域移行におけるその役割を果たすため、生涯スポーツの普及とスポーツを気軽に楽しめる環境づくりに向けた一層の取組を実施していく。

文化系の活動については、地域ですでに活動している多種多様な団体に対し、子どもたちの受け皿となり、一緒に活動を楽しむ仲間としての受け入れ協力を呼び掛けている。

体育施設の整備は老朽化が年々進んでいるが、今後とも適切な維持管理に努め、安全かつ快適に利用できる環境を維持していくため、優先度の高いところから更新改修、修繕を進めていく。

町は、体育施設の利用者の利便性の向上と、効率的効果的な施設管理を目的とし、今年2月からスマートロックシステムを導入した。上市町 LINE 公式アカウントを利用して利用者自身で予約および施設の施錠開錠ができるようになったが運用を開始したばかりのため、多種多様な課題が発生しているが、早期の安定した運用を目指していく。

外部学識経験者の意見 (富山大学教育学部教授 笹田 茂樹)

地域と密接に連携しながら、子どもたち一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす教育を目指して、様々な取組が実施されている。

特に、教員の働き方改革に結びつく部活動の地域移行に関しては、学校教育、生涯学習、生涯スポーツの垣根を越えた改革が求められており、スムーズな移行の実現に向けて3つの分野が連携・協力しながら取組を行い、成果を挙げている。

また、放課後子ども教室やスポーツイベントなどでも、学校や公民館、スポーツクラブなどが連携しながら、こどもも含めた地域住民の「学び」や「育ち」を促進しようとする取組が見られた。

評価 (富山大学教育学部教授 笹田 茂樹)

学校教育、生涯学習、生涯スポーツのいずれの分野においても、概ね目標は達成されている。

少子化が進み、義務教育学校への統合が進められつつあるなか、こどもたちのより良き「学び」を保障するとともに、町の将来を担う人材の育成が求められており、上記のように学校教育、生涯学習、生涯スポーツの垣根を越えて、三者を融合するような思い切った取組を実施していく必要がある。

そのためには、地域学校協働本部事業やコミュニティスクールなどの制度を利用し、町民が一致協力してこどもを育成し、そのことで町民自身も喜びや生き甲斐を感じ、町全体が活性化していくような施策を展開していくことが望まれる。

外部学識経験者のプロフィール

富山大学教育学部教授

笹 田 茂 樹

専門分野

教育行政学

経歴

1982 年 慶応義塾大学文学部史学科 卒業
2001 年 神戸大学大学院総合人間科学研究科（博士前期課程）人間発達科学専攻 修了（修士（学術））
2007 年 神戸大学大学院総合人間科学研究科（博士後期課程）人間形成科学専攻 修了（博士（学術））

1982 年 株式会社日本交通公社入社 神戸三宮支店勤務（1984 年まで）
1986 年 兵庫県高等学校社会科教員として採用される。（2009 年まで）
2009 年 富山大学人間発達科学部 准教授
2016 年 富山大学人間発達科学部 教授
2022 年 富山大学教育学部 教授

主な著書

2006 年『現代教養論』（共著）（学文社）、
2009 年『リーディングス日本の教育と社会 教師という仕事』（共著）（日本図書センター）
2010 年『地域教育の構想』（共著）（同時代社）など

社会活動

富山県民生涯学習カレッジ富山地区センター運営会議委員長
富山市教育委員会事務管理執行状況点検評価委員
富山市教育振興基本計画懇話会委員（2019 年）
魚津市教育振興基本計画策定委員会会長（2014～2015 年）

令和6年度 主要事務

担 当 班	学校教育班	事務の内容	不登校児童・生徒相談支援
目標とする指標	1・2学期の不登校、教室外登校児童・生徒の人数		

1 目標数値

年度別 目標数値等 (数値化で ないものは 方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和6年度末実績
	令和3年度	不登校、教室外登校児童・生徒の人数(1・2学期) [不登校]		不登校、教室外登校児童・生徒の人数(1・2学期)
	目標年度	小学校 0名 中学校 19名	0名 10名	7名 18名
	令和7年度	[教室外登校] 小学校 2名 中学校 6名	0名 5名	3名 6名

2 目標達成のための主な事業

事 務 事 業 名	事 業 内 容
教育支援センターの運営	不登校の児童・生徒が再登校を目指せるよう、上市町教育支援センターに教育指導員2名・教育相談員1名を配置し、児童・生徒の対応にあたる。
スクールカウンセラーの配置	県教育委員会が全小中学校にスクールカウンセラーを各1名配置し、児童・生徒のカウンセリングにあたる。
スクールソーシャルワーカーの配置	社会福祉士であるスクールソーシャルワーカーを上市中学校、教育センターに配置し、主に不登校の傾向にある児童・生徒やその家庭への働きかけなどの対応にあたる。
子どもと親の相談員の配置	学校生活や家庭生活での子どもや親の不安や困り感に対応するため、令和6年度も県事業を活用し、相談員を1校に配置し、家庭支援にあたる。
悩みごと相談窓口の設置	学齢期の子どもを持つ保護者に向けた悩みごと相談窓口を上市児童館2階の幼児ことばの教室内に設置。教育センターの発達支援アドバイザーが相談にあたる。

3 令和6年度末実績の点検及び評価

不登校児童・生徒の数は、スクールカウンセラーの配置や町教育センターに配置した発達障害支援アドバイザーを中心に相談・支援体制の充実を図ってきたことから、減少傾向にあった。しかしながら、家庭環境が悪化している家庭が多く見られる。このため不安を抱え不登校傾向になっているが、特に小学生の不登校が多くなっているように思われる。

学校になかなか登校することができない児童・生徒に対しては、子どもと保護者に寄り添ったケアに取り組むことが大切である。学校でも引き続き担任の家庭訪問を含めスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家と連携を取りつつ、相談・支援していく必要はある。また、児童虐待が疑われるケースもあるため、福祉部局(こども家庭センター)と連携した取組を進めることが求められる。

今後も、関係者が一体となって不登校の児童・生徒や保護者をケアしていく必要がある。

令和6年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	小学校外国語活動の推進
目標とする指標	アンケート結果の「とても楽しい」回答率		

1 目標数値

年度別目標数値等（数値化できないものは方向～）	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和6年度末実績
	令和3年度	40%	60%	22%
	目標年度			
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
外国語指導助手の配置	各小学校に4名配置。英語での会話や発音のモデルとなり、担当教員の授業をサポートする。フォニックス指導を担当する。
外国語指導研修の実施	小学校外国語活動の指導力向上を促すため、毎年開催する。
フォニックスカードの導入	アルファベットごとの単語をイラストとつなげて子どもたちが覚えやすいように、フォニックスカードを作成する。

3 令和6年度末実績の点検及び評価

外国語教育の目標の一つとして、「英語を聴いて書ける」力を子どもたちに育むことをめざすため、令和4年度から小学校3、4年生の外国語活動、5、6年生の外国語科のすべての授業において「フォニックス」を導入した。

令和3年度末に児童アンケートを実施し、フォニックス活動が「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「あまり楽しくない」「全然楽しくない」の4項目で回答してもらい、約40%の児童が「とても楽しい」と回答した。

今後は、外国語指導研修の実施などによりアンケートの「とても楽しい」率を上げていく必要がある。

令和6年度 主要事務

担 当 班	学校教育班	事務の内容	教員の働き方改革の推進
目標とする指標	教員の時間外勤務の削減		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化できないものは方向～)	基準年度	基準数値		令和7年度目標		令和6年度末実績	
	令和3年度	教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間		教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間		教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間(4月～翌1月)	
	目標年度	小学校	35.8時間	小学校	20時間	小学校	31.5時間
	令和7年度	中学校	65.0時間	中学校	50時間	中学校	40.3時間

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
ICT支援員配置事業	ICT支援員を配置し、教員のICT活用を促進し、業務改善につなげる。
留守番電話設置事業	音声ガイダンス対応の留守番電を設置することにより、時間外の間合せ等に備え、時間外対応の軽減につなげる。
地域部活動推進事業	地域の各競技協会、スポーツ少年団、スポーツ指導者等と連携し地域に新しくクラブを設置し、中学校部活動を移行することにより、教員の負担軽減につなげる。
小中学校教員支援員派遣事業	小中学校の教員が出張、休暇等により不在とする場合において、自習等を行う児童生徒を指導する教員支援員(小中教員免許所有者)を当該教員の在籍校に派遣することにより、教員の負担軽減を図る。

3 令和6年度末実績の点検及び評価

これまでも、プール授業や教室のワックスがけなど教員の負担となっている業務の見直しを行い、業務委託を行うなどして、負担軽減を図った。また、部活動の地域移行などにより中学校での教員の負担軽減に取り組んだ。さらに給食については、町独自の公会計化を進め、学校事務の負担軽減につなげた。

今年度からは、登校時の学校の解錠を業務士が行うこととし、教員の出勤時間の適正化を図るとともに、小中学校の教員が出張、休暇等により不在とする場合に代わって児童生徒の自習(教科書の練習問題、ドリル、プリント等の実施)等において指導を行う教員支援員を派遣することにより、教員の負担軽減を図った。

今後も引き続き、教員の負担軽減に資する取組を進めてまいりたい。

令和6年度 主要事務

担 当 班	生涯学習班	事務の内容	放課後子ども教室の充実
目標とする指標	放課後子ども教室の利用延べ人数		

1 目標数値

年度別目標数値等は方向・数値化で	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和6年度末実績
	令和3年度	放課後子ども教室 利用延べ人数 14,653人	利用延べ人数 14,700人	利用延べ人数(見込み) 13,500人
	目標年度			
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
放課後子ども教室推進事業	放課後等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、学習や体力づくり、文化活動などの体験・交流活動の機会を提供する教室を実施している。 また、中学校では、放課後に教員OBによる学習支援を行う教室を実施しており、各公民館では、子どもたちの居場所づくりとして、工作や料理などの体験学習を中心に、豊かで有意義な土曜日を実現することを目的とした教室を実施している。

3 令和6年度末実績の点検及び評価

各教室において、開催日を学校行事と重ならないように調整したり、子どもたちが興味を示しそうな体験教室を計画するなど内容を工夫したこと等により、利用者数は昨年度よりも約2,000人増加する見込みとなっているが、コロナ禍以前の人数には達していない状況である。
しかし、教室の運営に携わる地域人材の確保には毎年苦慮している状況である。

令和6年度 主要事務

担 当 班	生涯学習班	事務の内容	公民館の充実
目標とする指標	公民館講座受講者数		

1 目標数値

(年度別目標数値等 の数値化できないも のは方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和6年度末実績
	令和3年度	33,976人 講座受講者延べ人数	34,000人/年間	24,500人
	目標年度		170,000人 (R3～R7延べ人数)	講座受講者延べ人数 (見込み)
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事 務 事 業 名	事 業 内 容
公民館講座開催及び行事の実施	各公民館で開催している公民館講座のPRに努めるほか、公民館での行事実施により、町民が公民館を訪れる機会を創出することで公民館を知ってもらうように努め、講座参加者の増加につなげる。
公民館環境の充実	利用者の利便性の向上のため、公民館へ備品を整備するほか、館内で快適に過ごすことができるよう、必要な施設修繕に努める。
地域での読書環境の充実	上市図書館の蔵書の一部を地区公民館に配置することにより、読書に親しむ環境が町民の身近な施設で提供できるよう努める。

3 令和6年度末実績の点検及び評価

公民館講座、行事等については、参加者の大幅な増加には至っていないが、公民館でのスマホ教室を昨年度の9施設から11施設に拡大して開催したほか、まちなか交流プラザ(カミール)で実施している介護予防教室(毎週金曜日午前中)の地区公民館でのオンライン開催を、昨年度から実施している相ノ木公民館に加え、南加積公民館でも11月から開始するなど、デジタルを活用した利便性向上に努めた。 利用者の高齢化対応として、弓庄公民館に会議用テーブルを3台購入したほか、公民館(10施設)へWi-Fiを整備し、加えてノートPC、プロジェクター、Webカメラを備品として購入し、公民館職員や利用者に対するデジタル環境の充実に努めた。 また、主な施設修繕として、柿沢公民館の雨樋設置工事、男子トイレ取替修繕、相ノ木公民館の玄関扉修繕を実施した。 さらに、上市図書館の蔵書を希望のあった公民館3施設(音杉、南加積、弓庄)に配置し、年3回蔵書の入れ替えを実施することにより地域での読書環境の充実に努めた。 デジタル環境を活用した公民館事業等により、新たな利用者が増加するように努めたい。 施設修繕については優先度を精査しながら適切に実施し、生涯学習環境の充実に努めたい。 また、地域の読書環境の更なる向上のため上市図書館と連携し、地域の要望に沿った蔵書を公民館に配置できるように努めたい。
--

令和6年度 主要事務

担 当 班	生涯学習班	事務の内容
目標とする指標	史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進 整備活用事業などの推進	

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化できなものは方向～)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和6年度末実績
	令和3年度	平成18年1月26日 史跡指定	保存整備事業の推進 活用事業の推進	黒川上山墓跡 ・保存整備工事
	目標年度	平成18年3月10日 上市町が管理団体に		
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業	上市黒川遺跡群は、中世の文化・宗教・社会を知る上で、上市町のみならず全国的にも貴重な遺跡として平成18年に国指定史跡となった。 これまで保存管理計画の策定(平成19・20年度)、史跡指定地の公有化(平成21～23年度)、整備活用基本計画の策定(平成23・24年度)、整備基本設計(平成25・26年度)と段階的に事業を進め、平成28年度からは国庫補助金・県補助金の交付を受けて保存整備事業に着手している。 令和6年度 ・黒川上山墓跡保存整備事業 - 保存整備工事(張芝、ベンチ2基(据え置き式)、園路舗装等)

3 令和6年度末実績の点検及び評価

- ・黒川上山墓跡保存整備事業

今年度は、上山墓跡の張芝、ベンチ2基の設置、園路舗装等を実施した。

来年度は保存整備工事として、樹木伐採工、ベンチ2基設置、サイン工(史跡名称サイン、総合解説サイン、車両侵入防止サイン)、車止め2基の設置を予定しているほか、前期工事の最終年度として整備事業報告書の作成も予定している。

平成25年度に作成した整備活用基本計画について、現状に合わせた見直しが必要になってきていることから、史跡上市黒川遺跡群整備活用検討委員会や国、県と協議の上、新たな整備活用基本計画を策定していきたい。
- ・活用事業の実施(黒川フェスティバル)

令和6年度中止

令和6年度 主要事務

担 当 班	生涯スポーツ班	事務の内容	「スポーツ・イン・ライフ」の実践
目標とする指標	「スポーツ・イン・ライフ」の実践		

1 目標数値

年度別目標数値等（数値化で）	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和6年度末実績
	令和3年度	スポーツ人口、スポーツ団体ともに高齢化・減少化にあり、またスポーツ施設が一時休館するなど利用制限もあった。	スポーツを「する・みる・ささえる」活動を推進する。	参加型スポーツイベントとして「つるぎリレーマラソン＆健康ウォーク大会」を開催した。 参加者 486名 (うちスタッフ62人)
	目標年度		カヌー・キャンプイベントを開催する。	剣新自然公園においてカヌー・キャンプイベントを開催した。 参加者 13名 (うちスタッフ6人)
	令和7年度	三つの間(「時間」「空間」「仲間」)や既成のスポーツに捉われない日常生活の中で自然にスポーツに親しむ「スポーツ・イン・ライフ」の実践	「スポーツ・イン・ライフ」の認識普及	

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
生涯スポーツ推進事業	新しい参加型スポーツイベント開催 ・つるぎリレーマラソン＆健康ウォーク大会を今年も開催(2回目) スポーツで活躍する選手を広く紹介することで、スポーツを身近にする ・カタレ富山碓井聖生選手表敬訪問歓迎セレモニーを実施
野外活動普及事業	上市町の豊かな自然環境を活用し、野外活動を通じてPR ・カヌー、キャンプイベント、スキー大会企画(悪天候により中止) ・トレッキング(千石城山、はげ山) ・つるぎ山麓トレイルdu上市 (主催 富山ランニングクラブ(地域の任意団体))
「スポーツ・イン・ライフ」啓発事業	各種自然体験型レクリエーションを通じて、生活の中にスポーツを位置づけるほか、地元の自然資源に触れ体験することで地域愛の醸成図れるような事業を実施。 (上記体験型スポーツイベントの開催)

3 令和6年度末実績の点検及び評価

生涯スポーツ推進事業	職場の仲間、友人、町内会単位で参加するイベント、つるぎリレーマラソン＆健康ウォーク大会を開催できたことは、新たなスポーツ人口の増につながったものと感じる。また、同日に手軽にできるニュースポーツを紹介できたことは、スポーツ活動、体を動かすことを身近に感じてもらったものとする。 また、地元で縁ある競技スポーツ選手(サッカー・カタレ富山碓井聖生選手)表敬訪問歓迎セレモニーを実施し、町内外に広く紹介できたことは、スポーツをより身近に感じていただくきっかけになった。
野外活動普及事業	町内の自然資源を活用した野外活動を企画実施する。自然に触れ普段経験することができないカヌーやキャンプ宿泊を行うことで、心身リフレッシュとなり健康への意識付けと、隠れた町の良さを知ってもらえるきっかけとなった。引き続き実施できるようにしたい。
「スポーツ・イン・ライフ」啓発事業	体験型のスポーツイベント、キャンプ、カヌー体験、ニュースポーツ体験などを意識した事業を行ったことで、よりスポーツや健康を意識してもらったものと感じる。 つるぎ山麓トレイルdu上市では地域の任意団体が主催し、丸山総合公園をスタートして大観峰山頂から城ヶ平山、上市ダムを周遊するルート(剣岳を臨むコース)など3コースに約800名の参加がありました。 引き続き地域の任意団体と協力して多くの方々に実感していただけるように取り組みたい。

令和6年度 主要事務

担 当 班	生涯スポーツ班	事務の内容	生涯に渡りスポーツを楽しむ環境の整備
目標とする指標	地域への新規クラブ設置数		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化できないものは方向値)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和6年度末実績
	令和3年度	児童、生徒数の減少に伴い、中学校部活動数の維持が将来困難である。	地域クラブ設置に向け競技協会、指導員等に地域移行に向けた方針を説明する。総合スポーツクラブの新規事業、地域の文化活動団体への受入れ体制を整備する。	部活動の機能をそのまま移行した地域クラブが7種目活動中(カヌー、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、柔道、剣道、空手道)
	目標年度			
	令和7年度	地域への新規クラブ設置数 10クラブ		

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
地域部活動推進事業	地域の各競技協会、スポーツ少年団、スポーツ指導者等と連携し地域に新しくクラブを設置し、中学校部活動を移行する。地域に活動場所を移行することで、子供たちの活動の場と機会の確保を図る。また、指導者の資質向上や競技団体の活性化を図る。
上市町総合スポーツクラブの充実	上市町総合スポーツクラブの中学生向けのスポーツ事業を発展させる。また、各競技団体との連携を強化し、地域へのスポーツ情報の提供を行うことで、クラブの認知度を上げ、クラブ運営を促進する環境を整備する。
健康運動能力向上支援事業	プレ・ゴールデンエイジ期からゴールデンエイジ期に、各専門指導者を保育園や小学校に派遣することで多様な運動経験を積み、運動能力やコミュニケーション能力の向上を図る。

3 令和6年度末実績の点検及び評価

地域部活動推進事業	今年度は、中学校の部活動をそのまま移行した7種目の地域クラブが活動中(バスケットボール部、バドミントン部、柔道部、剣道部、空手道部、カヌー部、硬式テニス部)。地域クラブ推進協議会やアンケートの実施による満足度調査、体験教室「上中トライアル」や指導者研修会を実施することで、持続可能な運営体制や子ども達のニーズに応じた活動を実施することができた。
上市町総合スポーツクラブの充実	教室やイベントの内容充実に向けて、今後も町民のニーズを把握し地域のスポーツ振興拠点として運営していくために、町スポーツ協会やスポーツ推進委員協議会との連携を深めていきたい。 中学校部活動の地域移行について、スポーツを気軽に楽しみたい子ども達の受け皿となる教室を新たに展開中。令和6年度は体験会を実施し、令和7年度からは平日の放課後などに継続的に実施していく。
健康運動能力向上支援事業	5歳～12歳の幼児、児童へ継続的に運動指導を行うことで運動が好きな子どもの数を増やしていく。各保育所(園)や小学校のニーズの把握を行い、講師と情報共有することで子ども達は積極的に活動に参加している。児童、生徒の運動習慣の定着つなげる取組みを保育所(園)、小学校と連携しながら進めていきたい。

令和6年度 主要事務

担 当 班	生涯スポーツ班	事務の内容	スポーツ施設の整備
目標とする指標	施設修繕件数と備品整備件数		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化できないものは方向～)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和6年度末実績
	令和3年度	スポーツをする環境の充実 水銀灯照明のLED化	修繕:5件 備品購入:2件 LED化:1施設	修繕:0件 備品購入:0件 LED化:1施設
	目標年度			
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
社会体育施設整備事業	社会体育施設の長寿命化、機能向上やLED電球への置換工事等の環境整備や施設利用者間の利用調整を進めることで施設利用の促進を図る。
学校開放施設整備事業	グラウンド付属設備(照明設備・防球ネット等)をはじめとする学校開放事業に係る環境整備を行うことや施設利用者間の利用調整を図る。
スポーツ少年団活動の充実	活動拠点となる施設の提供、スポーツ少年団同士の交流を促進させ、技術の向上だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図る。

3 令和6年度末実績の点検及び評価

社会体育施設整備事業	今年度、上市町武道館の照明LED化修繕工事を行った。 社会体育施設の老朽化が著しいため、引き続きこまめな点検・修繕を随時実施していく。 今年度、スマートロックシステムを導入し、上市町公式LINEのアプリを利用して施設の利用や予約が可能となった。 このことにより、施設を管理する管理人の業務量を大幅に削減することができ、維持管理費を大きく削減することができた。
学校開放施設整備事業	今年度、スマートロックシステムを導入し、上市町公式LINEのアプリを利用して施設の利用や予約が可能となった。 そのため、利用者は鍵の受け渡しをするために公民館へ立ち寄ることが不要となり、鍵当番を決める必要も無くなるなど、利便性が大幅に向上した。
スポーツ少年団活動の充実	昨年に引き続き、スポーツ少年団交流会をつるぎリレーマラソン&健康ウォーク大会とあわせて開催した。来年度以降も継続して実施し、日頃、各競技間で交わる機会少ない団員同士の交流の機会として続けていきたい。